

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	○教職員の肯定的評価は97% ○保護者の肯定的評価は71% ○地域の肯定的評価は100% ※学校教育目標は学校、家庭、地域が一体となって達成すべき目標であることが、教職員・地域には浸透していることが考えられる。保護者の参画意識を高めていくことが課題である。
	生徒	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	保護者の参画意識を高める方策 ・地域とともにある学校づくりを一層推進し、保護者が来校する機会を有効活用し、保護者がもつ教育力を生かしていく。具体的には、学校公開日の際に学校の情報を積極的に公開し、必要に応じて保護者の方に授業や学校行事への参加をお願いしていく。
	保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○学校教育目標は、「学校」「家庭」「地域」が一緒になって達成すべき目標である。昨年度と比較をして、保護者肯定的意見が60%→71%へ向上した。引き続き、学校教育目標について学校行事やホームページ等を活用し、複数回周知をすることで、学校教育目標を「学校」「家庭」「地域」の共通の目標であることを再確認していく。
	地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		*保護者の肯定的評価は71% *地域の肯定的評価は100%

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学級経営	教職員	②私は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題 ○教職員の肯定的評価は93% ○保護者の肯定的評価は80% ○地域の肯定的評価は100% ※概ね肯定的な評価となった。
	生徒	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □系列1 □系列2 □系列3 □系列4 □系列5	課題解決への方策 よさや可能性を一層発揮できる学級経営にするための方策 ・授業や学活で、自分の考えを表現していく場面を意図的に設定する。自分の気持ちを適切に豊かに表現することで、お互いの他者理解を進めていく。 ・授業での学び合い学習を一層充実することで、柔らかな人間関係を醸成し、自分らしさを発揮しやすい環境を整える。
	保護者	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価 ○「教室に居場所がある」ことは、安心して学習ができる環境であるといえる。互いのよさや可能性が発揮できる環境は、自己肯定感を育む環境であるといえる。昨年度と比較をして保護者肯定的意見はほぼ同程度となっている。また引き続き地域の方からは概ね肯定的な評価となつてはいる。誰一人取り残すことなく学ぶ教室の実現にむけて、家庭・保護者と連携をはかりながら、生徒自身が自分のよさに気づける、また他者のよさに気づける学級づくりを、今後も行っていき行っていく。また、保護者や地域の方が生徒の様子をみる機会を意図的に増やしていくことで、連携の強化をはかっていきたい。 *保護者の肯定的評価は86% *地域の肯定的評価は100%
	地域	②学校は、生徒のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導①	教職員	③私は、生徒が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果について の分析・課題	○教職員の肯定的評価は88% ○保護者の肯定的評価は93% ○地域の肯定的評価は100% ※概ね肯定的な意見となった。
	生徒	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決への方策	学習目標達成のための学び合い学習についての方策 ・教職員研修の一層の充実をはかる。特に教科部会を充実させ、教科として学び合い学習の質が高まるよう取組を行っていく。
	保護者	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係者評価委員会による評価	○主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、学び合い学習を推進している。日ごろの授業を粘り強く行っている結果として、集会の際、生徒は豊かな表現で自分の気持ちを他者へ伝えている。保護者・地域の方からの意見は概ね肯定的な評価が多く、数値的には向上しているが100%になっていない。今後は、全ての教育活動を通して、表現力を養っていく。そのためには、さらなる授業力の向上を目指し、研修を充実させていく。 保護者の肯定的評価は93% 地域の肯定的評価は100%
	地域	③学校は、生徒が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果について の分析・課題	○教職員の肯定的評価は82% ○保護者の肯定的評価は93% ○地域の肯定的評価は100% ※概ね肯定的な意見となった。
	生徒	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策	教職員のICT機器一層の活用スキルアップの方策・ICT支援員を有効活用していく。多くの教職員が最低限度以上のICT機器の活用能力を身につけていることができている。そこで、一層活用をしていくために、専門的な知識・技能をもつICT支援員を有効活用していく。
	保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価	○学習目標達成のためにICTを有効活用することは多くの授業で実践できており、授業のスタンダードとなってきた。保護者・地域の方からの意見からは概ね肯定的な評価となっており、昨年度から比較をしても数値的には向上している。しかしながら100%ではない。今後は、学習用端末を活用しながら学力向上にどのようにつなげていくのか？情報活用能力の向上させていくのか？に視点を充てて実践を重ねていく。 *保護者の肯定的評価は87% *地域の肯定的評価は100%
	地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 についての 分析・課 題	○教職員の肯定的評価は93% ○保護者の肯定的評価は91% ○地域の肯定的評価は100% ※概ね肯定的な意見となった。
	生徒	⑤私は、体育や休み時間・部活動等で、校庭や体育館などでいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	課題解決 への方策	体育的行事・運動部活動の確かな運動量の確保についての方策・限られた時間の中で確かな運動量を確保するためには、事前に細やかな計画をたてておく必要がある。体育部会を中心に活動計画をしっかりと作成し、計画性をもって活動ができるようにしていく。また部活動予定表を生徒に配付前に管理職が確認をすることで活動日数や時間・大会への参加状況を確認し適切な助言を行う。
	保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○体育の授業、部活動(運動部)、学校行事(体育祭)等で、生徒の体力向上に努めている。新体力テストの結果では、多くの項目で県平均、市平均をこえている。保護者・地域の方からの評価では概ね肯定的な評価であり、昨年度と比較ををしても数値的に向上がみられた。具体的には①そう思うに回答した保護者の割合が向上していた。この数値を前向きにとらえ、今後は、体育の授業を中心としながら、中学生年代に必要な運動を積極的に取り入れ、体力の向上に努めていく。また体力向上の観点からは食育の充実が不可欠である。家庭の協力を得ながら、朝ごはんをしっかりと食べることや栄養バランスのとれた食事について啓発を行っていく。
	地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、生徒の体力向上を図っている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤		*保護者の肯定的評価は91% *地域の肯定的評価は100%

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導①	教職員	⑥私は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ○教職員の肯定的評価は85% ○保護者の肯定的評価は78% ○地域の肯定的評価は100% ※教職員と保護者の評価が比較的ひらいている結果となった。教職員は解決したと思っている事案でも、保護者からするとまだまだ心配な面が残っていることがあったため、このような結果となったことが考えられる。
	生徒	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 保護者との連携についての方策 ・保護者とは、細やかで確実な連絡をする必要がある。そこで早急にしっかりと事実確認を組織的に行うことが大切である。生徒指導部会・教育相談部会を有効に活用していく。また場合によっては担任からの連絡だけでなく、学年職員や養護教諭など複数人から連絡をすることで、組織的に対応していることを保護者に行動で伝えていく。
	保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ○生徒指導部会・教育相談部会を中核として、全教職員で組織的にいじめやトラブルには対応してきた。多くの事案では課題解決をすることができたが、現在も課題解決に向けて対応している事案もある。保護者・地域の方からの評価は概ね肯定的な意見ではあるが、昨年度と比較をしてわずかではあるが数値が減少した。また他の項目に比べ肯定的評価がやや低い。今後、1つ1つの事案に対して丁寧に対応していくことが、生徒のためになると考えている。そのためには、保護者の方と連絡を密にとりながら対応を重ねていくことが大切であると考える。 *保護者の肯定的評価78% *地域の肯定的評価100%
	地域	⑥学校は、生徒の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ○教職員の肯定的評価は93% ○保護者の肯定的評価は79% ○地域の肯定的評価は100% ※教職員と保護者の評価に差があった。生徒や保護者からの悩み等の理解が、学校と保護者とが共通理解が図られていなかった可能性がある。
	生徒	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決への方策 相談体制と支援体制の確立についての方策 ・特性をもつ生徒や心に悩みを持つ生徒に対して適切な支援ができるようにしていく。外部機関を積極的に活用し、専門的な見地から助言をいただき支援体制を一層強力なものにしていく。また、SSRの有効活用について生徒指導部会・教育相談部会を中心に検討していく。
	保護者	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ○生徒指導の基本は生徒理解にある。担任を中心としながら、全教職員で思春期をむかえた生徒のつまずきや悩みを受けとめることができる組織体制を確立している。保護者・地域の方からは概ね肯定的な評価となってはいるが、昨年度と比較をしてわずかではあるが数値が減少した。今後は、家庭とともに生徒の成長を見守るという観点から、家庭への連絡を密にし情報を共有しながら、様々な悩み等への対応を行っていく。 *保護者の肯定的評価79% *地域の肯定的評価100%
	地域	⑦学校は、生徒のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果 についての 分析・課 題	○教職員の肯定的評価は83% ○保護者の肯定的評価は73% ○地域の肯定的評価は100% ※教職員と保護者の評価に差があった。生徒の困り感に気づき、個別最適化した学びの実現にはまだ課題が残る結果であった。
	生徒	⑧私は、苦手なことなどを、先生や保護者に相談し、一緒に解決しようとしている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	課題解決 への方策	教職員の意識改革についての方策 ・生徒の目に見える課題に対しての支援は適切に行われていたが、目には見えにくい課題についての支援には課題が残る。教職員が様々な課題を生徒は抱えている現状について理解を深めていく必要がある。そこで教職員研修を効果的に活用し、個別最適化した学びについて意識改革を行っていく。
	保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係 者評価委 員会によ る評価	○生徒一人一人苦手なことや課題と感じていることがある。生徒や保護者からの相談を受け、課題克服のために個に応じた対応をしている。保護者・地域の方からは概ね肯定的な評価となっており、昨年度と比較をしても数値は70%→73%と向上した。また他の項目に比べやはり肯定的評価がやや低い。今後は、生徒や保護者の意向を丁寧に聞きながら、可能な範囲で道具や工夫を取り入れ、合理的配慮ができるよう努めていく。 *保護者の肯定的評価は73% *生徒の肯定的評価は100%
	地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤		

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	評価結果についての分析・課題 ○教職員の肯定的評価は75% ○保護者の肯定的評価は65% ○地域の肯定的評価は100% ※教職員と保護者ともに他の項目に比べ肯定的評価が低かった。教職員は保護者・地域とともに活動する意識の低さと活動する機会の少なさ。保護者は積極的に学校づくりに参画する意識の低さからの結果であると考えられる。
	生徒			課題解決への方策 学校の「よさ」を知ってもらい、学校のことが好きになり、学校運営に参画していくための方策 ・学校公開日や「ふれあい活動」を通して、学校に来校していただく機会に、藤中学校のよさを実感してもらう。また、生徒の活躍をこまめに学校だよりやHPに掲載することで情報を発信していく。
	保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	学校関係者評価委員会による評価 ○「学校」「家庭」「地域」が一緒になって生徒の成長を見守っていくものである。学校応援団や学校運営協議会委員として学校運営に参画している意識があり、学校づくりに協力していると認識している方は半数強であった。多くの方が参加をしているところではあるが、より一層の方の協力をえるために、「ふれあい活動の充実」が考えられる。また昨年度と比較をして保護者肯定的意見は62%→65%と向上した。しかしながらまだまだ数値的には向上の余地がある。引き続き今まで以上の周知を行っていくために、学校だよりやホームページを活用して、活動の意義や活動の様子を積極的に発信し、一人でも多くの方の参加を促していく。 *保護者の肯定的評価は65% *地域の肯定的評価は100%
	地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% ■① ■② ■③ ■④ ■⑤	

藤

中学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察	
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	21% 54% 18% 7% 0% 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% □① □② □③ □④ □⑤	評価結果 について の分析・課題	○教職員の肯定的評価は75% ※他の項目に比べ低い結果となった。生徒と接する時間は確保でき、さらに在校時間も減少したが、業務改善が進まなかった結果だと考察している。
	生徒			課題解決 への方策	業務改善を推進するための方策 ・C4thの有効活用、教科部会としての資料の保存、校務分掌の平準化などに取り組むことで、少しずつではあるが業務改善を行っていく。
	保護者			学校関係 者評価委 員会によ る評価	○生徒指導・教育相談体制が機能し、新たな不登校人数等が減少した。また、在校時間も減少傾向にある。学校が楽しくみんなと一緒に学べる場所となるよう、より一層の学力向上に努めていく。
	地域				